

エントツドロバチの巣作り

技術士(衛生工学部門、生物工学部門)

環境カウンセラー(事業者部門)

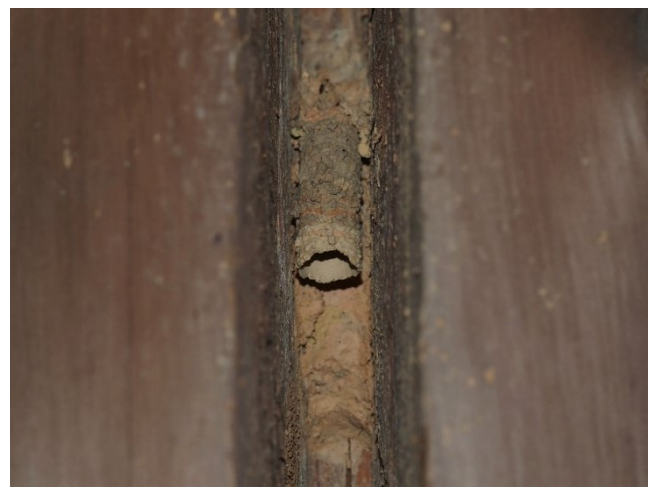
本堀 雷太

●エントツドロバチ(*Orancistrocerus drewseni*)とは？

エントツドロバチはドロバチ科に分類される狩蜂の仲間で、本州、四国、九州、佐渡島、対馬、大隅諸島に分布しています。胸部は黒色で腹部に二本の黄色い帯を持ちます。我が国では、雌のみが採取されており、恐らく単為生殖によって繁殖していると考えられています。



エントツドロバチ



エントツドロバチの巣

他のドロバチの仲間と同じく泥で巣を作りますが、巣作りにおいては和名の由来となった煙突状の出入口を作ります。巣材の泥は巣の近くにある崖地などで採取しますが、その際には体中に溜め込んだ水を吐き出して泥を柔らかくしてから球状に丸めて運びます。運んだ泥を顎で薄く引き延ばしながら産卵を行う室を作り、煙突状の出入口を備えます。

母蜂はこの状態で室内に産卵し、そして餌となる蛾の幼虫などを狩り、室内に持ち込みます。幼虫の孵化後もある程度の大きさになるまで母蜂は餌を運び成長を支えます。ある程度の大きさになったら、最後の餌を運び込み、泥を持ち込んで幼虫の居る室を塞ぎます。全ての室を塞いだら、煙突状の出入口も崩して塞ぎます。これで巣が完成します。

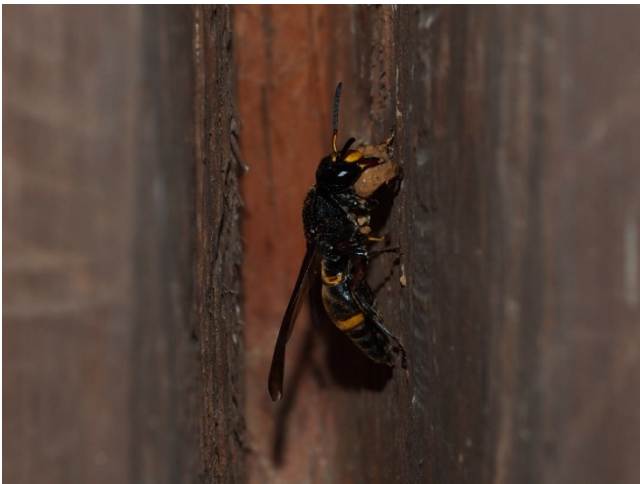
今回は、近くの公園で巣作りをしていたエントツドロバチの個体を観察した結果を撮影した写真で示します。



崖地で巣作りに適した泥を探しています



水を吐き出して泥を柔らかくし、球状に丸めます



球状に丸めた泥を運びます



泥は湿った状態で運ばれます



泥を顎で伸ばして煙突状の出入口を作ります



完成した煙突状の出入口



乾燥した煙突状の出入口



巣の内部に入り産卵します



幼虫の餌となる芋虫を狩り、巣に運んできました



巣の中に芋虫を持ち込みます



最後の餌を運び込んだら、泥を用意して室を塞ぎます



出入口から室を塞ぐための泥を持ち込む様子



全ての室を塞いだら、水を吐いて出入口を崩します



柔らかくなった煙突状の出入口を顎で均します



煙突状の部分で出入口を塞ぎます



煙突状の出入口が塞がれた状態(完成した巣)